

対話しながら成長した子供達

7月の半ばとなり、一学期もいよいよ最終盤となってきました。一学期には、歓迎遠足・運動会などの学校行事や児童総会・折り鶴集会など児童会が企画した行事も行われました。また、学級活動では、お楽しみ会を企画したり、他学年との交流会などを企画したりしています。その中で、子供達は話し合いを通してよりよい行事・集会になるように、そして、よりよい学校生活を送ることができるようにと考えて活動しています。これは、今、授業でも必要となる「対話力」が育っているということにもなると思います。対話をうまく成立させるためには、いろいろな壁が待ち構えています。①自分が思っている考えがあっても恥ずかしいから上手く言えない。②自分の本来の考えとは違った捉えられ方をする事への不安があって思いを出しにくい。③相手の考えにどうしても納得できなくて、自分の思いを通したいという考えが強すぎる。④多くの意見が出ると、どうまとめていくべきか分からなくなる。……など。

ここで、小学校特別活動「学級活動」の学習指導要領（指導すべき指針のようなもの）の中に次のような目標が記してあるのを紹介します。

『学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。』

子供達の中には、先に述べた①～④のような壁を感じている人もいると思いますが、一番大事な『目標』を見失わないようにして、教育活動を行っています。①②恥ずかしいとか、友達からどう思われるか不安という気持ちをもっているが、勇気を出して自分の意見を述べる。③相手の考えをしっかりと聞くとともに、その奥にある「思い」までしっかりと受け取ろうとする。④自分の考え・友達の考えを総合的に考え、よりよい方向性を探そうとする。

そんな子供達の姿が見えたからこそ、よい一学期の終わりを迎えられると考えています。保護者・地域の皆様、一学期間本校児童の健やかな育ちをご支援ご協力いただき、誠にありがとうございました。

学校長 田丸 栄